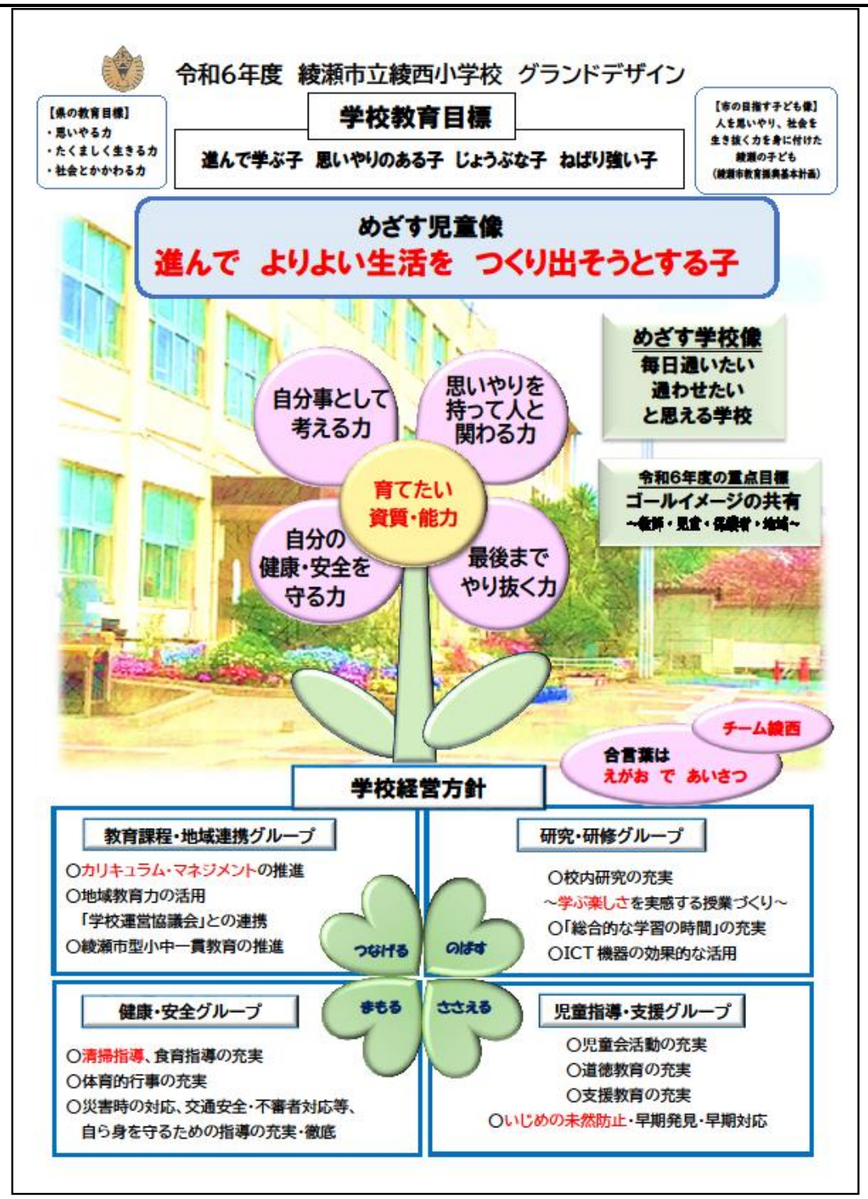
令和6年度　綾瀬市立綾西小学校　学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	（学校教育分野）　人を思いやり　社会を生き抜く力を身に付けた　綾瀬の子ども
学校教育目標	「進んで学ぶ子」　（知） 「思いやりのある子」（徳） 「じょうぶな子」　（体） 「ねばり強い子」　（意）
学校経営方針 （グランドデザイン）	

今年度の重点目標	めざす児童像「進んでよりよい生活をつくり出そうとする子」 育てたい資質・能力 「自分事として考える力」「思いやりを持って人と関わる力」「自分の健康・安全を守る力」「最後までやり抜く力」	
取組分野	**評価の観点**	**学校の自己評価と改善策**
1　学習指導	学校は、「よく考え、進んで学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	職員が一丸となって授業改善に取り組んできた成果として、約８割の児童が「進んで学習している」と回答しています。本校の目指す「進んで学習する姿」とは、学校の授業に向かう姿勢だけではなく、学校以外の生活場面でも探究心を持ち続けることや、自ら学ぶことで社会に出た後でも生きて働く学力を身に付けることです。そのためには、まず児童に学校での学習を「分かる」「楽しい」と思わせることが大切です。今後も、職員一人ひとりが日々の授業改善に努めるとともに、互いに高め合うことのできる職場環境を整えていきます。
2　教育課程	児童は、学校行事や特別活動にねばり強く取り組んでいる。	９割以上の児童が、「運動会や遠足など学校の行事が楽しみで、がんばって取り組んだ。」と答えています。また、９割以上の保護者が、児童は行事や特別活動に積極的に取り組んでいると評価しています。今後も、各行事・特別活動等を通して、児童一人ひとりが生き生きと活躍できるように心がけていきます。
3　児童・生徒指導	学校は、思いやりのある子を育てる指導を積極的に行っている。	約９割の児童と保護者が、児童は「あいさつをして、友だちともなかよくしている。」と答えています。あいさつは、家族や友だち、先生に向けるものだけではなく、地域の方々にも児童が進んでできるようにしたいと考えています。そのためには、地域の方々がいつも児童を見守り、支えてくださっていることが実感できるような学習や体験を積み重ねさせたいと考えています。生活科や社会科、総合的な学習の時間などで地域の方々と関わりをもったり、『ふれあいランド（PTA主催）』や『感謝の集い』などの行事を継続させたりすることで、より一層、児童が地域とのつながりを感じられるようにしていきます。
4　児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	約９割の児童が、「友だちとの学校生活を楽しんでいる。」と答えています。しかし、約１割の児童が、「あまり思わない」「思わない」「分からない」のいずれかに回答しています。今年度は、月に１度のスクールアンケートに加えて、年に３回、『学校生活のアンケート』を実施しました。『学校生活についてのアンケート』は児童一人ひとりに関する多面的理解を深め、あたたかな学校・学級風土を育むことを目的として行いました。スクールアンケートには表れない児童の悩みに気づくための一つの手立てとなりました。今後も、学級の人間関係づくりに生かしていきます。

5　児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	「スクールアンケート」の取り組みや、児童指導委員会、ケース会議によって教職員は約９割が肯定的回答をしています。今年度は、児童指導委員会の中で、「人間関係づくり」をテーマにした研修会も行いました。しかし、保護者の肯定的回答は６割強程度で、教職員と保護者の捉えに差があります。教職員はいじめの早期発見・再発防止に努めていますが、さらに理解を求めるために、学校だよりや懇談会等、周知の機会を見つけて、今後も積極的に知らせていく必要があります。
6　保健管理	学校は、じょうぶな子を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	９割の児童・保護者が、「健康や安全に気をつけて、元気に生活している」と答えました。 避難訓練は、児童への事前告知をしない訓練を２学期の休み時間に行いましたが、児童の迅速な避難行動を見ることができました。災害はいつ起きるか分かりません。自身の身を守るための正しい行動ができるように、学校のきまりを常日頃から守れるように指導していきます。
7　安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今年度は、災害に備えた２回の避難訓練と不審者対応訓練、一斉下校訓練、引き渡し訓練を行いました。各訓練において、各学級での避難経路・手順の確認をしたり、自身の取り組みを振り返ったりする事前・事後の指導が欠かせません。指導の内容は職員会議で確認し、学校として一貫した指導となるように努めました。
8　支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	個別に支援が必要な児童には、保護者の要望をもとにして保護者・学校・専門機関相談員との協議を速やかに行い、一人ひとりに応じた教育環境を整えることに努めています。今年度は、集団での学習が難しい児童や登校渋りの児童の対応のために、「ほっとルーム」を活用し、個別指導体制を強化しました。また、スクールカウンセラーによる教育相談も積極的に行い、支援が必要な児童に対し組織的な対応を行うことができました。今後も、教育相談コーディネーターと教頭が窓口となり、学習支援者と担任、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携のもと、支援が必要な児童に適切な学習支援が実施できるようにしていきます。
9　組織運営	学校は、校長を中心とした運営組織になっている。	今年度は、グランドデザインを職員室や各教室、校舎内に掲示し、周知徹底に努めました。各総括教諭、学年代表を中心に全職員が、校長がグランドデザインで掲げている目指す児童像の実現に向けた計画、実践、振り返りを行うことができました。今後も、グランドデザインを意識し、担当総括教諭が中心となって、各グループが連携しながら、効率的で活発な運営が機能するように取り組んでいきます。

10　教職員の研修	学校は、教職員の授業力を高めるための校内研究の取組に力を入れている。	今年度は、「進んでよりよい生活をつくり出そうとする子」を目指して、『子どもが『考える』授業～そのためのひと工夫～』をテーマにした授業改善に取り組みました。児童がおもしろいと感じる授業やわくわくする授業をすることは、教師として常に追求したいことです。今後も、変化の大きい社会の中で、児童にとってよりよい教育とは何かを考えながら、全職員で授業力の向上に努めます。
11　教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	児童に応じた適切な指導を行い、よりよい成長を図るために、月に１回開かれる児童指導委員会や職員会議の場において、児童指導支援コーディネーターが中心となって、全職員で見守っていく必要のある児童の情報や変化の様子を確認し、今後の関わり方や支援のあり方などを共通理解しました。また、スクールアンケートで問題を把握し、迅速にチームで対応しました。今後も問題行動の状況把握・報告・協議・関係機関への連絡・対応などを迅速に行い、早期解決を図るようにしていきます。
12　情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	今年度は、個別面談や授業参観、学年発表会や運動会等を通じて、保護者の皆様に学校の様子を直接見ていただきました。また、ホームページでは学校だよりや学校運営協議会の様子などをお知らせしました。今後も、学校だよりや学年だより等の内容を精査し、地域・家庭に配付する中で、教育活動の実践を伝えていきます。また、校内の掲示物も工夫し、保護者が来校した際に学校や児童の取り組みを「見える化」していきます。そして、情報発信に留まらず、実際に学校での様子を見ていただく機会の確保を検討していきます。

【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】
取組分野の『児童・生徒指導』の内、児童支援についてのご意見をいただきました。その中でも、特に学校運営協議会の委員の方々が関心を示されていたのは、不登校傾向にある児童への支援体制や、「ほっとルーム」の活用についてでした。不登校傾向にある児童にとって、担任教諭の細やかな連絡や気配りが登校や学習に向けてとても大切である、というご意見をいただきました。今後も児童や家庭に寄り添った支援ができるように努めていきます。
学校評価では、「友だちとの学校生活を楽しんでいますか。」という設問に対して、１割の児童が「あまり思わない」「思わない」「分からない」のいずれかを選択しています。この結果から、学校生活の中で何らかの困り感を抱いている児童がいると分かります。今年度は、スクールアンケートの他に、年に３回「学校生活についてのアンケート（YPアセスメント）」を実施しました。『学校生活についてのアンケート』は児童一人ひとりに関する多面的理解を深め、あたたかな学校・学級風土を育むことを目的として行いました。スクールアンケートには表れない児童の悩みに気づくための一つの手立てとなりました。「スクールアンケート」と「学校生活についてのアンケート」は、来年度も引き続き行う予定です。日頃の児童との関わりや見守りをより丁寧に行う一方で、児童の困り感や悩みに気づけるように手立てを工夫していきます。